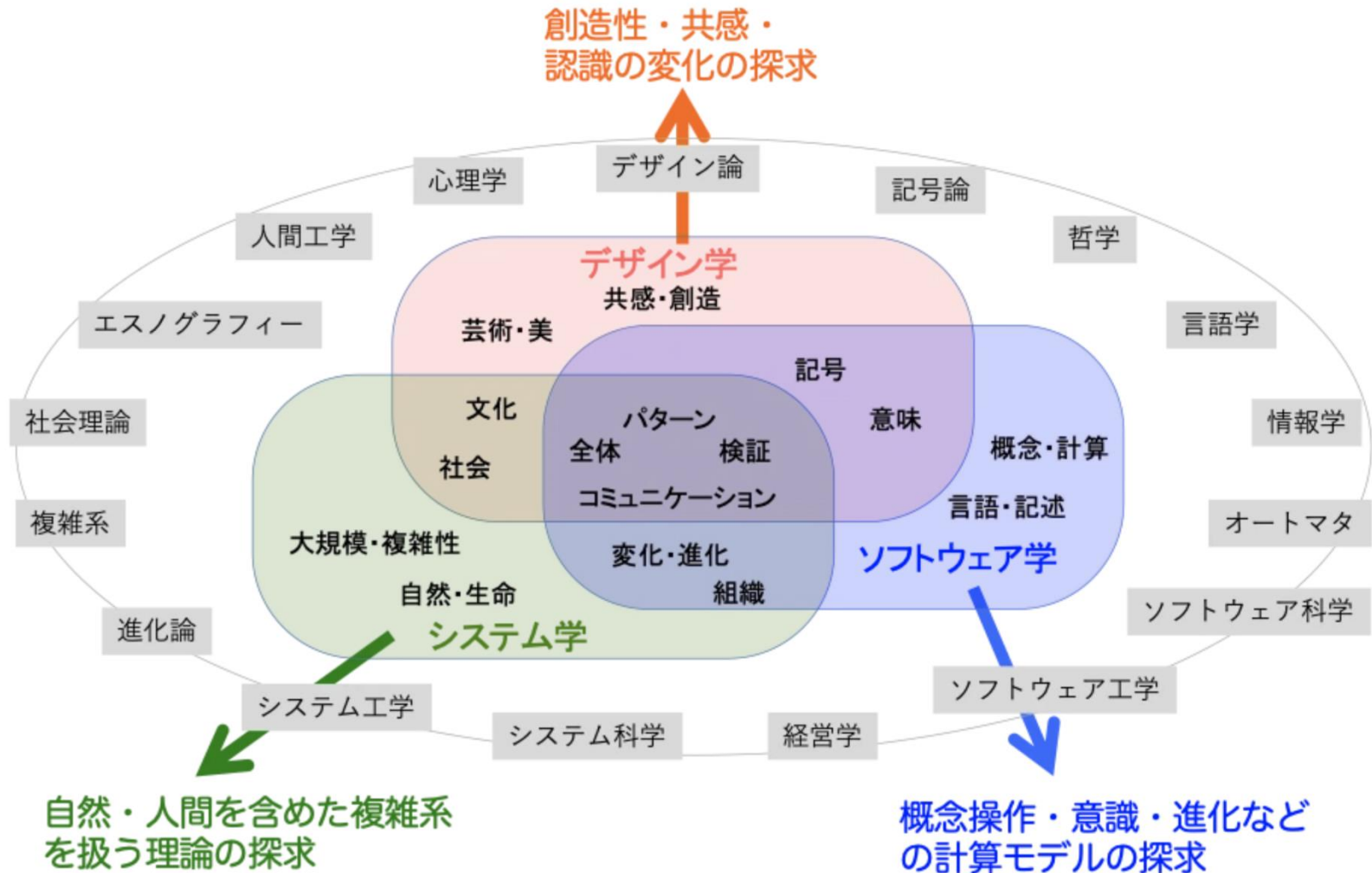


Symposium 2025 / A Track : Session 5

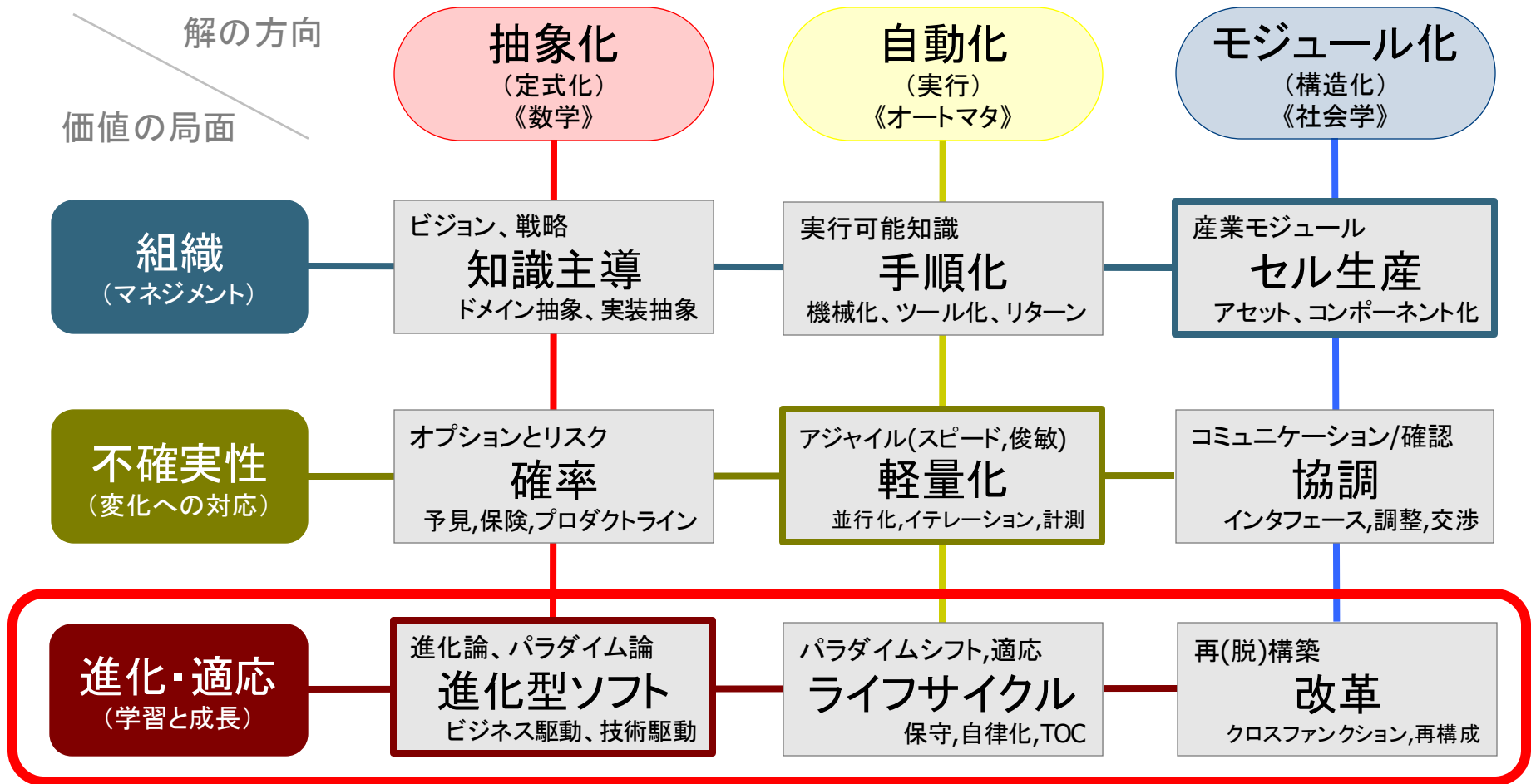
(A5) Session5 : 知働化時代の思考の技法（大槻）

知働化時代向け『思考の技法』という知のパラダイム



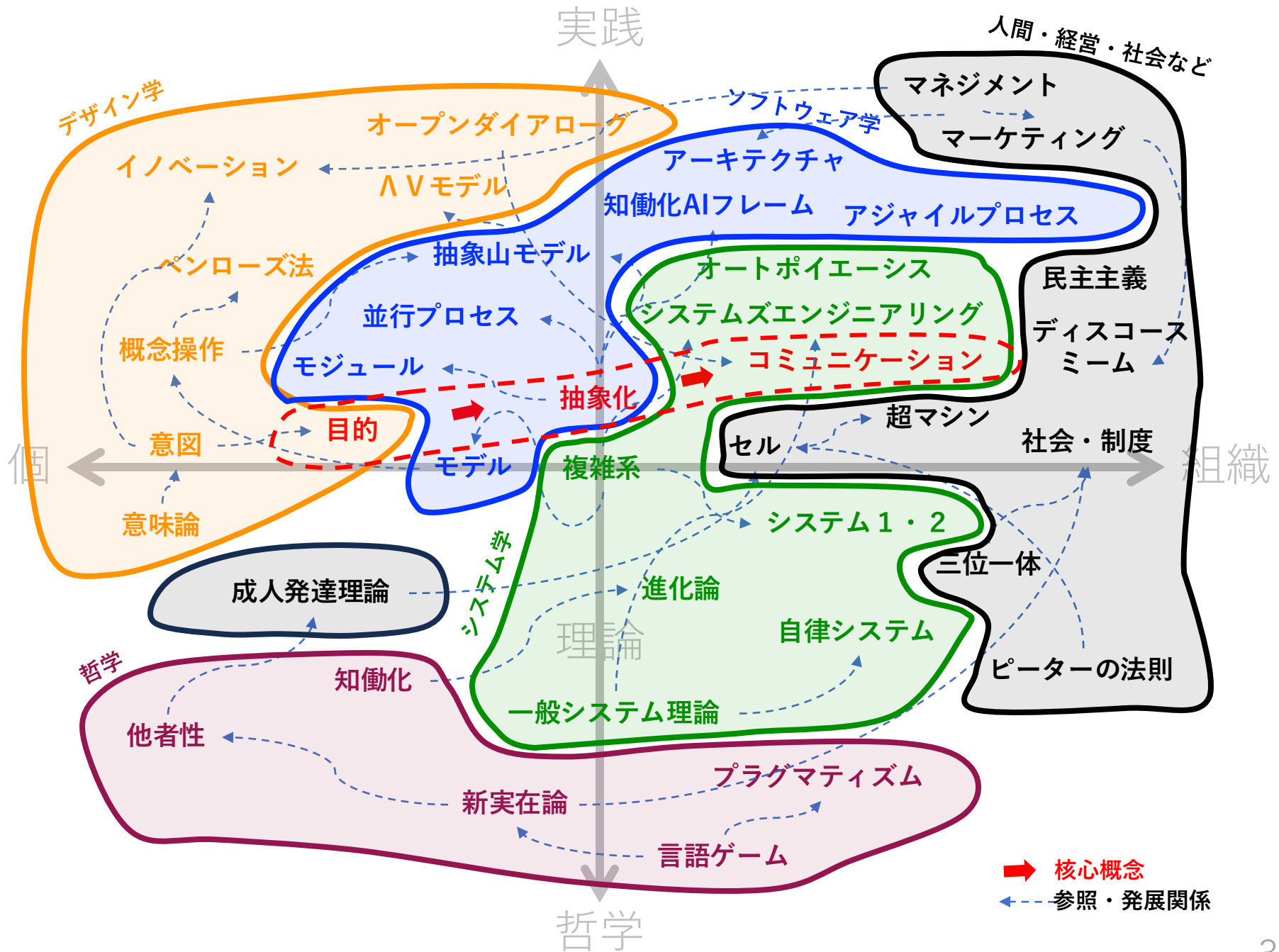
ソフトウェアが生み出す価値と それを生み出す方法(解)との関係

価値と解のマトリクス



ベースラインとしての組織（マネジメント）に始まり、アジャイルプロセスでは不確実性・変化への対応、そして、次に、進化・適応の方法に向かっています。

実行可能知識としての
ソフトウェア構築プロセス, 2012年6月

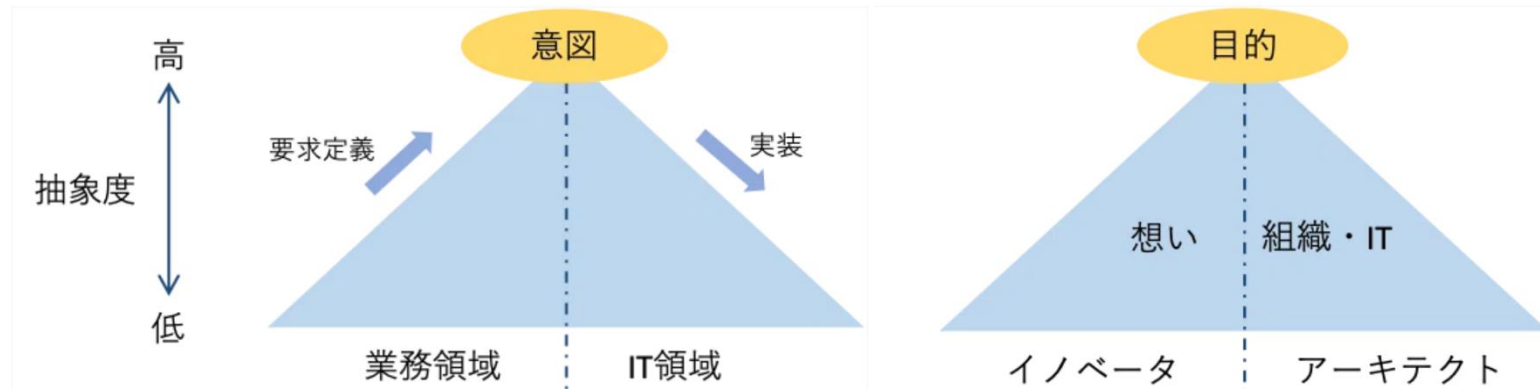


目的

目的（意図）は、唯一無二である
目的は、お天道様に対して恥ずかしくないもの
目的は、組織内（関与者）で共有される

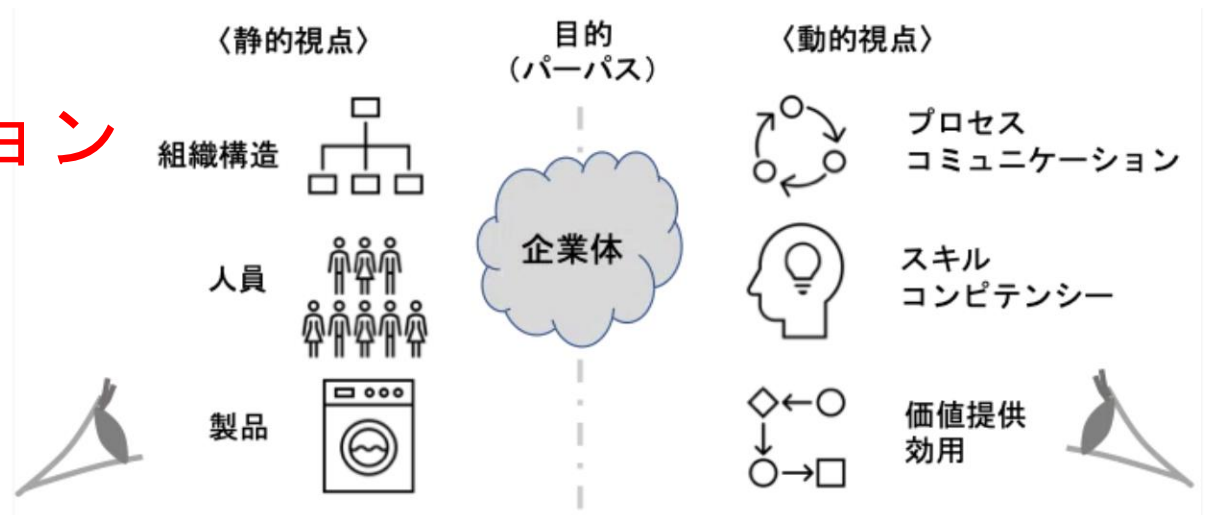


抽象化



組織・社会

コミュニケーション



思考の技法 新訂版

序

第1章 思考の技法とは何か？

- 1.1 人働説から知働説へ
- 1.2 学際的アプローチ
- 1.3 ソフトウェア学
- 1.4 システム学
- 1.5 デザイン学

第2章 核心概念

- 2.1 目的：意図を顕在化する
- 2.2 抽象化：不要なものを捨てる
- 2.3 コミュニケーション：組織化を図る

第3章 哲学

- 3.1 なぜ哲学が必要か？
- 3.2 言語ゲーム
- 3.3 新實在論
- 3.4 プラグマティズム
- 3.5 AIと哲学

第4章 システム

- 4.1 システムとは？
- 4.2 複雑性
- 4.3 オートポイエーシス
- 4.4 変化・革新・進化

第5章 組織と能力

- 5.1 ピーターの法則
- 5.2 マネジメント
- 5.3 成人発達理論
- 5.4 セル組織論
- 5.5 動的変化の常態化

第6章 応用技法

- 6.1 三位一体モデル
- 6.2 ペンローズ法
- 6.3 $\wedge$ Vモデル
- 6.4 超マシン
- 6.5 オープンダイアログ
- 6.6 思考停止の技法
- 6.7 ディスコースとミーム

第7章 トピックス

- 7.1 目的なきシステムの混迷
- 7.2 知働化AIフレーム
- 7.3 ラディカル知働化プロセス

執筆後記

⇒ https://note.com/ichi_s_otsuki/m/m17764f719b70